小5理科 もののとけ方 No.1

答えの 選択肢の ○を 1つだけ ぬる。
まちがえたら けしゴムで けす。

なまえ

出席番号　　必要な人は書く

問1　水よう液には、どのような特徴がありますか。

- ○ すき通っている
- ○ ２つの層に分かれている
- ○ 白くにごっている
- ○ あわが出ている

問2　ろ過をするときに、ろうとはどのような目的で使いますか。

- ○ 液を加熱して蒸発させるため
- ○ 液の重さを正確にはかるため
- ○ 液を安全に注ぎ入れるため
- ○ 液の体積を細かくはかるため

問3　液体の体積を正確にはかるために使う、目盛りのついた細長い器具は何ですか。

- ○ 蒸発皿
- ○ ビーカー
- ○ 丸底フラスコ
- ○ メスシリンダー

問4　水に溶けていない粒をろ紙に通したとき、粒がろ紙の上に残るのはなぜですか。

- ○ ろ紙の表面にのりがついていて、溶けていない粒がくっついて動けなくなるから。
- ○ ろ紙には目に見えない小さな穴が開いており、溶けていない粒はその穴を通れないから。
- ○ ろ紙を通るときに、水に溶けていない粒がすべて水に溶けて見えなくなるから。
- ○ ろ紙が水に溶けていない粒をすべて吸い込んで、消してしまうから。

問5　水にものをとかすとき、水の量を２倍に増やすと、ものが水にとける量はどのようになりますか。

- ○ とける量は変わらない
- ○ ものはまったく水にとけなくなる
- ○ とける量も増える
- ○ とける量は減る

問6　電子てんびんを使ってものの重さを正しくはかるとき、何も載せていないときの表示を何gに合わせますか。

- ○ 1g
- ○ 0g
- ○ 10g
- ○ 100g

問7　温度を上げてつくったミョウバンの水溶液を冷やすと、なぜミョウバンのつぶを取り出すことができるのですか。

- ○ 温度が下がると、水にとけることができるミョウバンの量が減るから
- ○ 温度が下がると、水がすべて蒸発してなくなってしまうから
- ○ 温度が下がると、水にとけることができるミョウバンの量が増えるから
- ○ 温度が下がると、ミョウバンが水の中でとけて見えなくなるから

問8　水の温度を高くしたときに、水にとける量が非常に大きく増える特徴をもつ物質はどれですか。

- ○ プラスチック
- ○ 食塩
- ○ 砂
- ○ ミョウバン

問9　決まった量の水に食塩などをとかしていくとき、これ以上とけなくなる限界のことを何といいますか。

- ○ とける量の限度
- ○ とける速さの限界
- ○ 水の重さの限界
- ○ とける温度の限度

問10　水の温度を高くしたときに、水にとける量が大きく増える性質をもつ物質はどれですか。

- ○ 砂
- ○ 食塩
- ○ ホウ酸
- ○ 鉄

問11　食塩水とは、どのような液体のことですか。

- ○ 砂糖が水に溶けた水溶液
- ○ 食塩が水に溶けた水溶液
- ○ 食塩が油に溶けた液体
- ○ 食塩が溶けずに底にたまっているだけの泥水

問12　1mL（ミリリットル）の水の重さは、何g（グラム）ですか。

- ○ 1000g
- ○ 10g
- ○ 100g
- ○ 1g

問13　メスシリンダーに水を入れたとき、液面は少し曲がっていますが、目もりを合わせる正しい位置は液面のどの部分ですか。

- ○ 液面のいちばん高いところの面
- ○ 液面のへこんだところの面
- ○ 容器のふちについた水滴の面
- ○ 液面のへこんだところと高いところの真ん中の面

QRを 読んで 答え合わせ
答案を 撮って 自動採点
点数は マイページに ためよう